

平成29年度 丹波篠山黒豆情報

第3号 平成29年9月15日 篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

*篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(平成29年9月12日篠山市定点調査結果より)

	1株当たり着莢数 (莢)
平成29年	96.0
平年(過去10カ年平均)	98.5
平年比	97%
平成28年(参考)	102.7

- ・株当たりの着莢数は96.0で、平年に比べて97%とやや少なくなっています。
- ・8月まで気温が高く、適度に降雨もあったため、黒大豆の株の生育はほぼ順調です。一部のほ場では、生育が旺盛で、茎葉が過繁茂となり、落花や着莢不良となっています。
- ・地域により1株当たりの莢数が最大109.5莢、最小69.8莢と差があります。

【病害虫】(平成29年9月12日篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ハスモンヨトウ 虫数/株	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
平成29年	1.3	0.00	0.00	21.7	0.27	1.35
平年(過去10カ年平均)	2.7	0.29	0.45	11.9	0.58	2.19
平年比	49%	0%	0%	182%	46%	62%

- ・サヤムシガ、ノメイガ類による葉や茎の食害程度は平年に比べて多い傾向です。
- ・ハスモンヨトウのフェロモントラップの誘殺数は、7月中旬と8月下旬にピークが見られます。誘殺数は多発した去年より少ないですが、過去4年間の中では多い傾向です。(発消長のグラフ参照)

【今後の対策】

1 子実や莢を食害する害虫対策

莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きいため、薬剤防除を必ず実施して下さい。

- ①カメムシ類、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシなどの害虫の発生に注意し、適切な防除を実施して下さい。

②ハスモンヨトウについては、9月に入っても捕殺量が多い傾向です。幼虫の被害が多くのは場で見られますので、早めの防除を実施して下さい。

上記病害虫の防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒豆栽培こよみ」で確認して下さい。

2 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病）対策

①立枯性病害が発生した場合は、発病株を早急に抜き取る。抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分する。

3 開花期から豆肥大期の土壌水分管理

①子実が肥大する 10 月下旬までは水が必要です。晴天が続いて土が乾いているときは、適時かん水を行って土壌水分の保持に努めましょう。

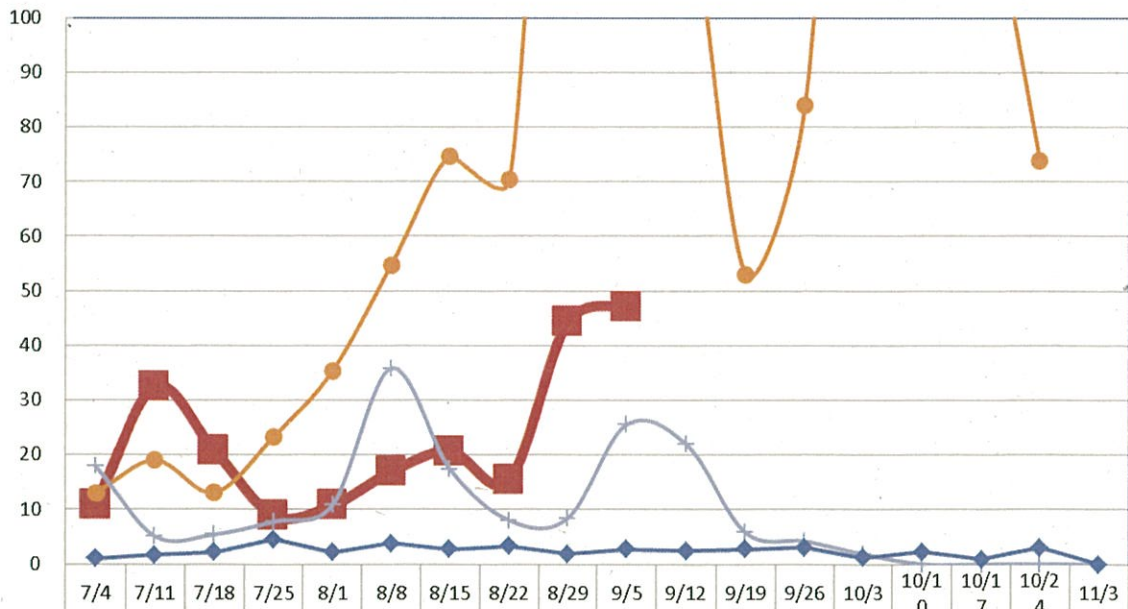
②水のたまりっ放しは、湿害や茎疫病の発生を招きます。畝間に水がたまっているほ場では、排水対策に努めましょう。

4 台風対策

①集中的な大雨の後水が停滞しないように、排水口を整えたり、排水溝と排水口が確実につながっているか、事前に点検を行いましょう。

②台風や強風で葉がもまれた場合は、斑点細菌病対策として、殺菌剤で防除する。

(匹) 頭数



(匹)
(匹)
(匹)
(匹)

ハスモンヨトウの発生消長(篠山市内平均数)